

ブレードホースが膨れる現象の対処方法に関するお知らせ

拝啓

貴社益々御隆昌の段お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
本書は表記案件に対して有効な対処方法が確立できた事をうけその対応方法をご連絡するものです。
以下に詳細をご紹介しますので、ご査収の程宜しくお願い申し上げます。

敬具

ブレードホースが膨れる現象について

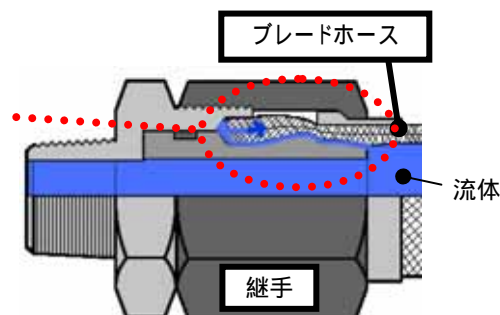
主に装置の一次側接続口にて発生し、二層構造となっているブレードホースの中間層に流体(エア、まれに水)が入り込むことで風船の様に膨れてしまう現象です。

原因としてブレードホースの組付け状態(作業バラツキ)が起因すると考えられておりますが、外観にて組付け状態の合否を判断することは難しく、殆どの場合にブレードホースが膨れてはじめてわかります。数例ではありますが、最悪のケースとしてブレードホースの破裂する例も確認されています。

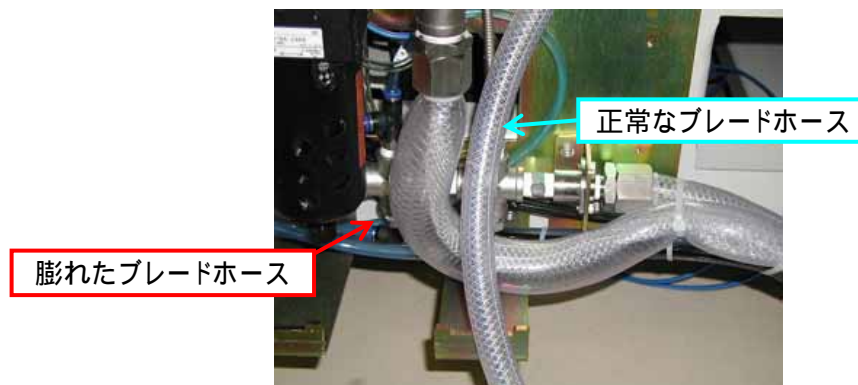
二層構造の外側は破裂しますが内側は残るため、即時に供給エアが遮断される事はありません。

発生メカニズム (ブレードホース継手断面)

内部の流体が継手とブレードホースの隙間を伝わり二層構造のブレードホース内部に侵入することで膨れを発生させる。



実際にブレードホース膨れた状態



(次ページへ続く)

当該現象の発生傾向

機種よる発生傾向の偏りは確認されておりません。

当該現象が発生する場合、組み付けられてから比較的短い期間(数ヶ月程度)で確認される傾向にあることがわかっております。

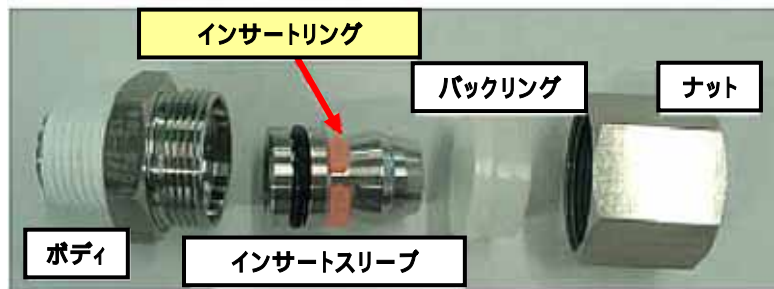
据付後半年以上経過してもブレードホースが膨れていない場合は安定した状態と考えられるため、そのままご使用頂くことを推奨いたします。

ブレードホースの膨れ防止に関して

ブレードホース継手に「インサートリング」を追加し、根本原因である継手内部に流体が溜まる状態を回避します。

万一、ご使用の装置でブレードホースが膨れてしまった場合は部品交換時に溝付きフロントリングを追加頂くことで予防する事が可能です。

社内評価にて「インサートリング」を追加しても性能に影響が無いことを確認しております。



見易くするため写真ではインサートリングに着色しておりますが実物は乳白色です。

お問い合わせ

インサートリングのみの販売も行なっております。

ご用命の際は担当営業、サービスまでお問合せ下さい。

以上